

研修医の手記

加藤 紘輔



本年度4月より市立釧路総合病院で初期臨床研修医としてお世話になっております加藤紘輔と申します。この度は連携ニュース誌上にてご挨拶の機会を頂き、誠にありがとうございます。

私は生まれも育ちも札幌で、高校卒業後に北海道大学に入学しました。大学では競技スキーをやっていました。学生生活であり勉強をしていなかったためか、昨年1年間の国家試験勉強は大変苦勞をしました。国家試験の手応えは薄く、合格発表の日まで不安な日々を過ごした記憶が昨日のように思い出されます。そして今年度から晴れて医師として働くことができるようになりました。医師としては

働き始めたばかりで至らないところが多々ありますが、先生方や病院スタッフの方々のご指導ご鞭撻のおかげで充実した日々を送っております。

市立釧路総合病院は道東地域の基幹病院として機能しており、地域完結型医療を守るために高度医療を実践しています。さらに当院はドクターヘリを所有する道東唯一の3次救急救命センターであり、高エネルギー外傷などの重症度・緊急度の高い患者様を受け入れています。当院で働くことで医師として成長できると思い、初期研修先として希望しました。

この1年間医師として成長できるように努力していきたいと思っています。未熟なところが多いので、皆様にご指導いただきたいと考えています。何卒よろしくお願い致します。

エキスパートナース紹介 Part.16



皆さまこんにちは、精神看護専門看護師の大島です。2017年11月に専門看護師の資格を取得し、現在1年目の活動を行っています。精神看護専門看護師は、精神科だけではなく、一般診療科の患者さんやご家族の心のケアを行う役割があります。

現在私は、精神科リエゾンチームに所属させていただいています。「リエゾン (liaison)」とは、橋渡しをする・連携する・つなげる、という意味があります。一般診療科で精神的に不安定になった患者さんやそのご家族のケアに関する相談を受け、病棟スタッフを支援していく活動を、精神科医、認知症認定看護師、精神保健福祉士と共に行っています。具体的には、一般病棟にいる抑うつや不安など精神症状を抱える患者さんや精神疾患がある患者さん、せん妄、認知症患者さんに対して、直接的もしくは間接的に関わり、病棟スタッフと協働して心のケアをしています。患者さんやご家族が安心して療養できるような環境を作ることができるよう一緒に考えたり、地域の関係機関を連携するお手伝いをさせていただきたいと考えています。

また、精神科においても複雑な問題を抱えた患者さんや家族が多くおられます。長期入院や入退院を繰り返し、地域で生活を送ることが困難な患者さん、自身の思いを伝えることが困難な患者さんなどが、「その人らしく」生活できるように、専門的な知識や技術を用いて支援を行っていきたくと考えています。

専門看護師は「実践」「相談」「調整」「倫理調整」「教育」「研究」と6つの役割があります。患者さんやご家族がより良い生活を送れるよう、この役割を意識しながら看護スタッフや多職種と連携し支援していけるよう日々努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

精神看護専門看護師 大島 友美



市立釧路総合病院

発行責任 広報委員会

〒085-0822 釧路市春湖台1番12号
TEL(0154)41-6121・FAX(0154)41-6511

第23号：平成30年6月28日発行

ごあいさつ



市立釧路総合病院 院長

高平 真

皆様にはあらためて日頃の医療連携に対するご協力に心より感謝申し上げます。

新たな北海道医療計画が策定され診療報酬・介護報酬改定等の面からも、よりいっそうの機能分化・連携のもとに地域包括ケアシステムを構築していくことが求められております。人口減少が著しいこの地域で完結型医療を維持していくことは未来に向けて決して崩してはいけなく、貴重な財産です。医療資源が乏しく、広域・分散型の典型であるこの地域では全国一律の方法ではなく独自の道を考えていかなければならないと思います。その中で当院が果たすべき役割は主に高度医療と三次救急医療の継続と考えておりますが、皆様のご理解とご協力なくして前に進むことはできません。そのためには医療連携相談室をさらに強化し円滑な紹介患者受け入れや後方連携、退院調整など福祉・介護分野とも今まで以上の連携を深めてまいりたいと思っております。

大きな時代の変化の中で釧路地域の34万人の住民の皆様が安心して生活をおくれるように地域の医療機関、介護施設や住民の皆様、行政とも今まで以上に連携を深め、日々の研鑽を怠らず、高度医療提供体制の継続と進化に努力してまいりたいと思っております。

重ねまして、関係各機関のご理解とご協力をお願いいたします。

理念「信頼と満足の創造」

経営方針

- 十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います。
- 地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します。
- 地域医療を支援するため、病診連携を密にします。
- 心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します。
- 良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます。

就任にあたって

薬剤部長 高岩 徹幸



今年度より薬剤部長に就任いたしました高岩と申します。

昨今の医療環境は目まぐるしく変化し、薬剤師の仕事も大きく変化しております。薬剤師の主な業務は、調剤業務、医薬品の管理と供給、医薬品情報の収集と提供、患者さまへの服薬指導、輸液や抗がん剤等の無菌調製、血中薬物濃度のモニタリングと投与設計、入院患者さまの持参薬管理など多岐にわたっております。

チーム医療においては、感染制御チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、緩和ケアチーム（PCT）などに参加し、薬剤師の専門性を活かした役割を果たすことも重要な業務です。これからの医療環境の変化に対応し、時代のニーズに合わせ、医療スタッフから求められる薬剤師であり続けたいと思います。

私たち薬剤部一同、患者さまに適切で安全・安心な薬物療法を受けていただくために日々努力して参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

事務部長 津田 学



平成30年4月1日付で事務部長を拝命しました、津田と申します。どうぞよろしくお願いたします。

まずは、自己紹介。昭和38年卯年生、星座は乙女座、血液型はA型。昭和59年に市役所に奉職以来、市民税課・財政課・介護高齢者福祉課・行財政改革推進室・職員課・市民協働推進課・教育委員会総務課を経て、この度、初めての市立病院勤務となりました。

私は、これまで一度も入院経験がなく、市立病院も昔、再検査のため胃カメラを受診した程度で、そもそも、病院嫌い、お医者さんも怖い方ばかりだと思っておりました。

しかしながら、初めて高平院長先生にご挨拶をしたとき、何と優しく、ダンディ、この方が病院の院長先生？と疑う自分があり、その後の運営協議会等において、私のドクターが“怖い”というイメージは一新されたところでありました。もちろん、看護部は澤田看護部長をはじめ、優しく、まさに“天使”であることはいつまでも変わりません。医療技術者等の皆さんを含め、「信頼と満足の創造」の理念のもと、日々頑張っている姿に誇りを感じました。

私は、これまでの人生において、多くの人と出会い、その出会いを大切にしてきました。この度の異動により、これまであまり縁のなかった人との出会いが与えられましたので、様々な機会に積極的に参加していきたいと思っております。気軽に声をかけてください。

病院機能評価の認定を受けました

当院は、2018年3月1日付で、財団法人日本医療機能評価機構から、病院機能評価3rdG:Ver1.1（区分：一般病院2）の認定を受けました。

認定期間は、5年間となっていますが、今後も医療技術、院内環境等、時代に合わせた変化に対応し、釧路・根室地域の高度専門医療と救急医療における当院の責務を果たしつつ、質の高い医療を提供するため、職員一同努力してまいります。



退院後訪問に伺います!!

患者さんが、在宅で治療の継続をしながらの暮らしは病棟・外来看護師には想像がつきにくく退院後の生活を見据えた支援の必要性を感じていました。そこで、平成29年10月より退院後訪問を導入しました。退院後の暮らしを支援するために病棟、外来の看護師と、当院の訪問看護師または、医療連携室の看護師が同行し安心・安全な医療・ケアの継続につなげています。一人でも多く退院後の生活を支援できるよう外来、病棟、医療連携室と協働しながら退院支援・調整に努めていきます。

医療連携室看護師
訪問看護師が
全力でサポート
しています。!(^^)!

